

桜蔭会三重支部だより

INDEX

- | | | | |
|------------------------|---|------------------|---|
| ・ごあいさつ…………… | 1 | ・支部会員様へのご連絡…………… | 2 |
| ・三重支部 総会&ランチ会 報告…………… | 2 | ・支部会員コラム…………… | 3 |
| ・桜蔭会総会・懇談会・祝賀会 報告…………… | 2 | ・編集後記…………… | 4 |



知多半島からのぞむ伊勢湾と神島 (2025/1/5)

ごあいさつ

三重支部長

江藤 みちる



あけましておめでとうございます。

本年もどうぞよろしく申し上げます。

穏やかなお正月を迎え、恒例の地元の漁港の初日の出を拝み、雲に反射する赤い太陽の光も幻想的で素敵でした。

今回は9連休と長期の年末年始休暇でしたので、両親の金婚式のお祝いを兼ねて南知多へ行ってきました。写真は、旅館の部屋から見た伊勢湾の朝焼けです。中央が神島で、三島由紀夫『潮騒』の舞台になったことで有名です。左が渥美半島、右が答志

島や鳥羽あたりで、さらに右手には伊勢、松阪、津と陸地が続きます。遠くに津市雲出の日本鋼管(現・JFE エンジニアリング)が確認できました。私の勤務先である三重大学は伊勢湾に面し、視界が良いと知多半島が見えます。いままでは本当に知多半島なのだろうかと半信半疑でしたが、実際に知多半島から三重県を眺めて納得しました。別の視点から物事を見ることが大事であると年始に良い学びを得ることができました。夜の満天の星空、朝日に向かって飛んでいく鳥の群れと、普段見ることのない景色も素晴らしかったです。

さて今年も、三重県在住の同窓の皆様との交流を通じて新たな気づきや学びを得る機会になればと思います。2025年も何卒よろしく申し上げます。

三重支部 総会&ランチ会 報告

2024年11月9日(日)11時~13時、津駅直結のホテルグリーンパーク津2階、和食料理「津みやび」にて三重支部総会およびランチ会を行いました。今年は7名の参加となり、昨年もお出席の方、久しぶりのご参加の方、初参加の方と、多様なお立場ではありましたがあつという間に打ち解け、おしゃべりを楽しみながら松花堂弁当や季節の花かご膳をいただきました。



津みやび

支部総会の内容は、今年の活動報告および会計報告、今後の活動予定と予算についてご報告しました。その後はランチをいただきながら、皆様の自己紹介につき、学生の頃の昔話や現在のお仕事の話、ご家族の話やこれまでの人生語りなど、お喋りは尽きず、あつという間の2時間でした。大学から遠く離れた地方でも同窓のネットワークがあることが本当に心強いですし、困りごとのお話を伺っていると自分でも協力できそうなことも見つかったりしました。今回都合がつかずに参加できなかった方も、ぜひ次回、お気軽にご参加ください。

なお、三重支部 総会&ランチ会にご出席くださった山根一枝様のお話が非常に興味深かったので、他の支部会員様にも聞いていただけたらと今回コラムの執筆をお願いしました。皆様も、日常のこと、趣味のこと、取り組まれていることなどを支部会報のコラムに載せてみませんか？ 字数自由、どんな内容でも結構です。原稿は支部長の江藤までEメールもしくは郵送でお送りください。

桜蔭会総会・懇談会・祝賀会 報告

2024年5月25日(土)にお茶大正門脇の国際交流留学生プラザにて5年ぶり完全対面の定時総会が開催され、三重県からは支部長・江藤が出席しました。代議員88名中51名が対面で出席し、再会を喜ぶ様子も見られました。事業報告・事業計画および会計報告がありました。懇談会は佐々木学長と副学長7名をお迎えして大学の現状をお話いただきました。とくにこの春初めての新生を迎えた共創工学部に注目が集まっていました。最後に桜蔭会創立120周年記念祝賀会が行われました。同じテーブルの方(偶然にも近畿でした!)とのお話も盛り上がり、それぞれの支部の取り組みや問題を伺ったりして良い情報交換ができました。祝賀会の様子は桜蔭会ホームページ「120周年記念事業」に掲載されています。右のQRコードからどうぞ。



支部会員様へのご連絡

・メールでのご連絡について

桜蔭会三重支部だより 令和6年度 第1号のおハガキでお伝えしたとおり、郵送料の値上げを機に、今後の支部連絡はEメールで良いという方には今回のお便りからメールにさせていただきました。皆様のご協力に感謝申し上げます。郵送希望の方にはこれまで通り郵送させていただきます。

・LINE オープンチャット「桜蔭会三重支部」

今はほとんどの方がLINEを日常的に使うようになりました。そこで今回、三重支部のLINEを試験的に立ち上げました。支部からのタイムリーなお知らせや、会員同士の交流の場として活用できたらと考えています。オープンチャットはLINEグループとは違って、他のメンバーにLINEアカウントを知られずに匿名での参加が可能です。参加登録時だけフルネームをご記入いただき、管理者(支部長)が許可した方だけがメンバーになります。関係者以外が入ってくることはありませんのでご安心ください。よろしければ右のQRコードからご参加ください。



支部会員コラム『私の歩みとこれからの桜蔭会に託す夢』

山根一枝 1980年(昭和55年)人文科学研究科修了

思春期には「人はなぜ争い、歴史的にも過ちばかり繰り返してしまうのだろうか？」と素朴に考えていました。そして考え付いたのが、世の中のあらゆる面で差別や偏見があるというのがその原因であるということでした。

先ずは自分が知らない世界を知ることが大切と思い、山梨県都留市の山に囲まれた小さな空を見上げる田舎の生活から脱出して大都会の東京の大学に入り、それから海外留学して自分の世界を広げることを目指そうと、受験勉強に励みました。大学では、文献よりも現在の社会現象を調査して分析することに興味を持ち、その結果、教育社会学を専攻しました。大学の入学式で「若い時はまず耳学問に励んで下さい！色々な直接の出会いによってあなたたちの可能性が広がる学生時代となりますように！」という激励の言葉を聞いたことも印象的でした。入学前からの夢であった海外留学を目指して、大学の単位をたくさん取ることと留学資金を貯めるためのアルバイト、語学力向上のためのESS部活動を必死に2年間頑張りました。そして、3年生の時に休学せずに、日本の大学生として卒業論文のための調査をする聴講生として、イギリスに一年間留学しました。その頃にはヨーロッパ諸国でも高層ビルが立ち並び、急激な都市化に影響されて、子どもたちの創造的な遊び場(冒険遊び場)を運営することが住民運動として広がり、国際的な冒険遊び場のネットワークが立ち上がっていました。東京でも世田谷区にこれまでの日本全国一律のブランコ、すべり台、お砂場だけではない廃材を使った秘密基地づくりや当時マンションでは飼えなかったペットの飼育が可能など子どもたちの冒険遊び場づくりが建築家によって始まっていました。当時ロンドン市内の冒険遊び場をあちこち取材し、いろいろな方々との出会いの中で英語力もつきました。

それと同時にケンブリッジ大学やコミュニティーカレッジでの聴講生として、多くの色々な国からの留学生との交流があり、たくさんの知り合いや友人ができました。中でも留学最後のお別れ会の時に同じアジアである香港からのクラスメートに掛けられた言葉が衝撃的でした。それは「あなたは日本人だから、最初から大嫌いで口もききたくなかったのよ。私は大好きなおばあちゃんから、おじいちゃんが日本人に首を切られて殺されたことを聞いていたからなの！でも今はあなたと一緒に一年間楽しく過ごせて、私の心の中の日本人に対する氷が解けたことがこの留学の一番の成果かもしれないわ！」と言われたことです。私はその時にただ涙しかできませんでした。帰国後大学院に進んで、修士論文では異文化理解をテーマにして、東京YWCAの留学生母親運動をしている100名に留学生を受け入れる前と後でのその国への意識の変化を調査してまとめました。私の仮説通りに、たとえその国や外国に行った経験のない人でも直接留学生と交流することによって、それまで抱いていた偏見や感情が変わっていました。

修士課程修了と同時に結婚し、夫の勤務のために熊本に5年間住み、その間2児の母として子育て中も留学生のサポートをボランティアでしていました。その後29歳で現在まで居る三重県に移り住み、留学生や在住外国人たちと草根の市民国際交流グループ「ルイ企画(Living, Understanding, Imagining)」を立ち上げ、共に生活しながら理解しあって新しい自分たちに必要なことを創造していく活動をしています。これまでに外国語版の地域の地図がなくて不便だったので、外国語版の生活便利地図や生活ガイドブックの発行をしたり、世界の家庭料理と一緒に作って食べる会をしたり、40か国の家庭料理のレシピ集をみんなで楽しめるように日本語、英語、現地語で作ってみました。ある仲間の

出身国への国際教育支援として、鍵盤ハーモニカやリコーダーをアフリカ・タンザニアの小学校に10年間で2千台近く送ったこともありました。

三重県に来てから次男に広汎性発達障害の診断が下り、それまでの私の将来展望をもった人生が急転直下し、努力してもどうにもならない初めての挫折感に苛まれた苦しみながらの生活が始まりました。シグソーパズルやファミコンなどは3歳上の兄よりもできるのに、知的障がい児であるために情緒障がい児学級在籍となり、小学校2年生の時には下級生からのいじめにあって親子で泣いていました。そのことで私は深く傷いて、もうこんな学校、町、国には将来がないと思い、夫の在外研究の機会に、家族で自閉症のティーチプログラムが開発されていたアメリカノースカロライナ大学に近いテネシー州チャタヌーガに住み、次男は地元の学校に自閉症留学をしました。アメリカでは発達障がい者のためばかりでなく、全般的に視覚的支援が充実しており、言葉をあまり頼りにしていない次男は、任天堂の国から来たスーパーマリオの絵がかける優等生となり、日本で将来がないと嘆いていたことが信じられないほどでした。知的障がい者のスポーツ組織も盛んで、スペシャルオリンピックスは誰でも知っていることにも驚きました。この半年の経験が息子の将来への希望となって、帰国後は三重県自閉症協会やスペシャルオリンピックスを三重県で始める活

動、バリアフリーミュージカルに加わった10年間の活動を始めました。20年前には三重県の知的障がい者雇用率が47位の全国最下位であったため、息子がスペシャルオリンピックス世界大会で銀メダルを取ったことが地域に大きく報じられ、それもあってか4年間三重県教育委員会委員を勤めました。その間、特殊教育から特別支援教育に変わった時には委員長となり、雇用率アップに向けてアピールしました。現在22位までアップしてきましたが、これまでパイオニアとして職場開拓してきた息子も一人暮らしをし、障害者雇用の進んだ東京の大企業に就職して自立しています。私自身はペアレントメンターとして、後輩のファミリーに子育て支援をしています。

そこで、学生時代にもどって、この同窓会のこれまでの伝統とつながりを生かして将来への可能性を育むために新たな事業を提案させていただきます。それは、「世界女流文学祭」を毎年恒例行事として三重県で始めることです。三重県には、伊勢神宮に仕えた皇女・「斎王」のいた斎宮博物館、清少納言が書いた枕草子にも出てくる名湯七栗の湯、さらに清少納言というホテルまであります。お茶大とその同窓会も含めた総力を結集して企画運営したら、テニスの試合で有名なウインブルドンや映画祭で有名なカンヌのように三重県が女流文学祭で有名になるのではないのでしょうか。

編集 後期

◇支部会員コラムは大変読みごたえのある内容となりました。支部会員の皆様は各方面でご活躍ですので、支部だよりを通じて今後もご紹介していけたらと思います。

◇来年度も支部総会&ランチ会を秋ごろに予定しています。年度始めに出来たら良いのですが、個人的に春夏は講義実習の勤務が毎年集中しており、余裕がなく申し訳ございません。支部運営をお手伝いしていただける方をいつでも募集しております！

◇なんでもお気軽にお問い合わせください。県外に転出される場合には、桜蔭会本部へのご連絡も併せてお願いいたします。

《桜蔭会三重支部 連絡先》

支部長 江藤みちる（平成10年 化学科卒）

Tel 090-3442-2607

Email michiruidaeto@gmail.com

三重支部へは右のQRコードからGoogle formでの連絡もできます。

